

---

# 僕と君と珈琲豆と。

夢音。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕と君と珈琲豆と。

### 【Nコード】

N8354S

### 【作者名】

夢音。

### 【あらすじ】

小学校から高校までエスカレーター式の名門校【ミリアム・キルス学園】

に転入してきた主人公「高杉織姫」だが、「変わり者」たちがいて戸惑う一方。

そんな状態で、織姫はいい学園生活をおくれるのか？！

## 再会。

ここは、ミリアム・キルズ学園。

『変わり者』が集まる名門校だ。

そんな学園に『変わり者』が集まる学園』とは知らず、

転入してきた高杉織姫（小6）は、校門の前でたちどまっていた。

「ここが・・・ミリアム・キルズ学園・・・？」

織姫がポツリとつぶやいた、そのときだった。

「お前・・・。」

（後ろから、懐かしい声。

とても大好きな声。）

そう思い、織姫はそうおもいながら

後ろをふりかえった。

「神羅・・・。」

織姫の真後ろには、織姫の小さい頃の友達『時飼神羅』がいた。

変わった？？

「転入生ってお前の事だったのか。」  
少し驚いたような口調で神羅は言った。

「うん。で、神羅はなんでこんな所にいるの？」

「先生に転入生迎えに言っ来ていっていわれたからさ。」

「そうなの……。」

「ああ。」

二人の間に少し沈黙が起きる。

< なんか、気まずい……。 >

織姫がそう思いかけてた時だった。

「なあ、いけないのか？」

神羅が話しかけてきた。

「うん……。いこっか」

「……こっちだ。」

「うん。」

織姫は、スタスタと歩く神羅についていった。

神羅は変わった。

性格も、顔も、体格も……何もかもが変わった。

昔とはまったく違う。

織姫は、少し切なくなった。

(あの時の神羅は、どこに行っちゃったの?)

そう心の中でつぶやいた織姫は、無表情のまま、うつむいてしまった。

## 梶崎夏似

「…ここが職員室だけ。」

「うん。」

そう織姫が返事した瞬間のことだった。

「時飼いいいいいいっ!!」

勢いよく神羅に抱きつく影が見えた。

「なんだよ…」

「あのねっ!!林田先生がっ林田先生がああっ!!」

「ハア。またか…あのなあ。梶崎。」

「何??」

「お前、もうちょっと強くなれよ……まあ、いいけどさあ。」

(いいのか。)

織姫は、心の中で神羅にツッコミをいれながら、梶崎と呼ばれた男の子の方をみた。

「んにゃあっ!!…で、転入生??」

「そうですか…」

「女の子かぁー。僕、梶崎夏似って言うんだ。よろしくね。」

「私は、高杉織姫。こちらこそよろしく。」

織姫は笑顔でそう言うと、夏似に聞いた。

「ねえ。林田先生って??」

「え…ああ。……あの人。」

夏似は、織姫の後ろを指差した。

「あ、あの人がぁ…」

「ぎゃあ。来た!!」

「ハア。織姫、梶崎の面倒みといて。」

「う、うん…」

神羅は、林田先生の所へ歩いていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8354s/>

---

僕と君と珈琲豆と。

2011年10月9日01時06分発行